コラム 1

ドイツ人の名前

ドイツのファミリーネームはたいていは職業名や村の風景に由来します。かつて人々が何らかの職を手にむかし暮らしていた名残です。Müller（粉屋）や Bauer（農家）は村の情景を思い起こさせてくれますし、Wagner（車大工）や Schneider（仕立屋）、Schuster（靴屋）、Becker（パン屋）などは伝統的な手工業の職業名に由来しています。また、属性を表す表現もファミリーネームになることもあります。Klein さんの先祖は、きっと体が大きくはなかったのだろうと推測されますし、Schwarz さんの先祖は、白い肌ではなかったのかもしれません。また、Fuchs（キツネ）、Hase（ウサギ）、Wolf（オオカミ）といった動物名もよくあるファミリーネームです。さらに、東欧地域からドイツに来た人々のファミリーネームが -ski という語尾で終わることも少なくありません。

ドイツ人のファーストネームは、Siegfried、Rudolf、Erich などの伝統的な名前のほか、Anna、Daniel、Matthias のような聖書に関わるヘブライ語由来の名前もあります。さらに、それ以外の外来語由来のファーストネームも増えています。Arne、Jens、Aven はスカンジナビア語由来ですし、Andreas や Christina などはギリシア語に由来します。

ファミリーネームとファーストネームの綴りについては、特定の 1 つに決まっているわけではなく、何通りもバリエーションがあるのが普通です。たとえば、古い村にいたであろう Schmied（鍛冶屋さん）に由来するファーストネームは、Schmid だったり、Schmitt だったり、Schmidt、Schmedt、Schmitz などの変異もあります。

Ich heiße Wagner. Ganz früher haben wir Räder für Wagen gebaut. Das machen wir nicht mehr. Heute habe ich nur noch Aktien von Volkswagen.

私の名前は Wagner です。私の先祖は、自動車の車輪工でした。今はその家業は途絶えていますが、私はフォルクスワーゲンの株を所有していますので、車との関わりがかろうじて残っています。

コラム執筆／フランク・リースナー　翻訳／田中雅敏

このコラムは教科書『どんどん話そうドイツ語』の追加教材として執筆されたものです。
それ以外の用途での使用、コピー、転載を禁じます。株式会社 郁文堂

コラム 2

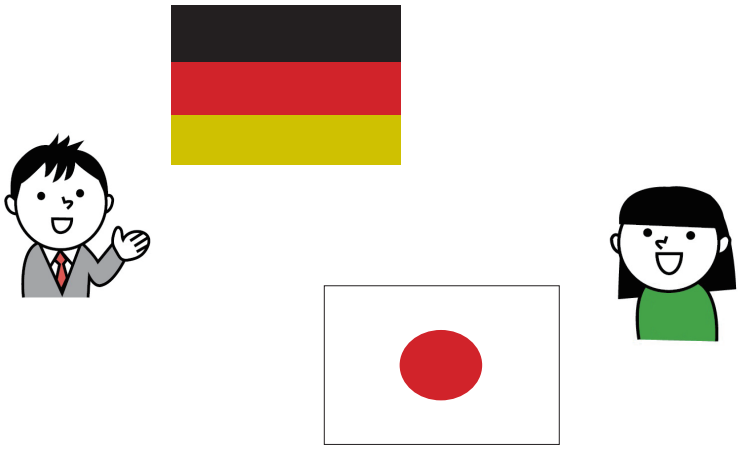
ドイツと日本

ドイツと日本は大きく異なります。文化、宗教、食事、コミュニケーションの仕方、礼儀作法、協調の仕方などがその一例です。

もしあなたが日本で、何かをどこかで置き忘れてしまった場合、誰もそれを取ったりはしないでしょう。しかしドイツでは、スリや盗難も多いため、自分の手荷物はより注意をしなければなりません。またドイツでは、よく公共の場で大声で言い合いをしているのを目撃します。これも大きな違いです。ドイツではコミュニケーションが日本よりも直接的で、まるでボクシングのようです。もし相手に反論ができない、またはしたくない、となったら、それは弱みを見せることと同じなのです。

日本では、サービスは受けて当然と思われています。ドイツのレストランでは時折、食事が運ばれてくるまでに時間がかかることがあります。よいサービスはドイツではチップとして報われます。ドイツ人はワークライフバランスにも気を遣います。仕事が終わったらすぐに帰宅します。一日の労働時間も日本より短く、定年も早いです。

両国の大きな共通点としては、パフォーマンスと組織力の高さです。ドイツと日本は敗戦国ですが、すぐに戦勝国に経済的に追いつきました。両国の地下資源は乏しいですが、どちらの国民も多くの分野で世界を牽引しており、世界最高水準を誇っています。ロシア、イギリス、アメリカ合衆国といった戦勝国が、自国では品質の高いものが作れず、ドイツや日本から車や工業製品を輸入しているというのは面白いですね。



コラム執筆／フランク・リースナー　翻訳／田中雅敏

このコラムは教科書『どんどん話そうドイツ語』の追加教材として執筆されたものです。
それ以外の用途での使用、コピー、転載を禁じます。株式会社 郁文堂

コラム 3

ドイツのアウトバーン建設

アウトバーンはアドルフ・ヒトラーの発明である、とよく言われます。しかし、ヒトラーがしたのはその建設の加速だけであって、それはプロパガンダの材料として利用されたに過ぎません。実際にはヒトラーよりも前に、ドイツにはアウトバーンがありました。たとえばベルリンには 1921 年時点で、AVUS（かつて自動車レース用サーキットとして使われた）が存在し、ケルンからボンにかけての区間では 1932 年には自動車用道路が完成していたのです。いわゆる「自動車専用道路」をめぐっては、ナチスの政権掌握の前にも多くの計画があり、ただ、当時は財源、その建設の必要性も乏しかったのです。加えて、当時のドイツはまだモータリゼーションの水準も低く、車など所有できるのは一部のお金持ちだけでした。一般庶民は自動車専用道路を金持ちのためだけの「贅沢道路」と呼んでいました。帝国鉄道もアウトバーンの建設加速には反対していました。というのも、鉄道にとって道路の整備は強力なライバルになってしまうからです。

ヒトラーはしかしアウトバーンプロジェクトをどうしても利用したかったため、多くの公約を武器に建設を束ねていきました。アウトバーン建設には、失業率を下げられる、国民の利便性を高められる、軍隊や戦闘機を効率よく前線に送り出せる等々、多くの利点があるというのです。しかし、それらはすべて嘘でした。失業率の低下に歯止めをかけられたのは軍事産業でしたし、軍隊の輸送はアウトバーンではなく鉄道によってなされました。アウトバーンは、戦車の重量にも、キャタピラ走行にも耐えられるものではなかったのです。ナチスのプロパガンダでは、新しく建設されるアウトバーンを「総統の道」と呼び、総統の手柄を強調しました。しかし、戦線がドイツから離れるにつれ、アウトバーンの存在価値は低下することになり、戦後、自家用車の交通量が著しく少なかったアウトバーンでは、部分的にのみ自転車の通行が許可される程度でした。

東ドイツでは大量輸送交通の整備は遅れていたものの（年配の東ドイツ人の記録によれば、子どもの頃はまだアウトバーンを遊び場として使えていたということです）、戦後のドイツは奇跡の経済成長を遂げ、多くの自家用車がこれらの道路を通行することになりました。今やドイツは、西欧と東欧を結ぶ要所として、強力なアウトバーンネットワークを誇っています。慢性的な交通渋滞や工事現場の多さもまた、今日のドイツのアウトバーンの特徴的な一場面となっていると言えるでしょう。

コラム執筆／フランク・リースナー　翻訳／田中雅敏

このコラムは教科書『どんどん話そうドイツ語』の追加教材として執筆されたものです。
それ以外の用途での使用、コピー、転載を禁じます。株式会社 郁文堂

コラム 4

ドイツの庭園

ドイツ人は、緑に囲まれていると幸せを感じる国民です。何百年もの間、ドイツ人は農耕民族であり、自然とともに、また自然から恵みを受けて暮らしていました。19 世紀の産業革命を受けて、都市部が成長し、工場制手工業が新しい生活基盤となりました。労働者居住区が手狭になり、緑地もなくなっていきました。同じく、子どもたちが遊べるスペースもなくなっていったのです。この状況をうけ、ライプツィヒの医者であり大学教員であったモーリッツ・シュレーバー（Moritz Schreber）は、市内の芝生区域を子どもたちの遊び場として確保することに尽力しました。彼の死後、この芝生区域はシュレーバー広場と名付けられ、学校の授業でも利用されるようになりました。そこにビートを植え、子どもたちは庭仕事も学ぶことができるようになりました。1869 年、子どもたちの親たちがそのビート畑を譲り受け、家庭菜園を営むことに決めました。その後、このビート畑は柵で囲われ、園亭が建てられました。子どもたちの遊び場として確保されたビート畑は、シュレーバー菜園と呼ばれる庭園になったのです。彼らはその後、協会を設立し、その協会の名前もシュレーバー協会としました。始まりとなった庭園は現存し、「Dr. Schreber」と呼ばれています。1891 年には、ライプツィヒ市内に同じような協会が 14 あったとされています。

特に、第二次世界大戦後には、国民に食べ物を提供するため、多くのシュレーバー菜園が新しく作られました。市内には人々が暮らせるスペースが限られていたため、菜園の園亭で寝泊まりすることもできました。今日では、日頃の住まいを出て、新鮮な空気の中でひとときを過ごすために、人々はシュレーバー菜園を利用しています。体を動かせることを楽しみにしている人もいれば、ただ静かなひとときを過ごせることを楽しんでいる人もいます。また、パーティをしたりバーベキューをしたりするにも格好の場所でしょう。シュレーバー菜園には、そこに人々が集うという社会的役割もあると言えます。また、ここ数十年で、農薬を使っていない果物や野菜が望まれ、食品の安全を求める声が高まっています。野菜や果物は、自分で栽培したものであれば、その安全性が保証されるのです。

コラム執筆／フランク・リースナー　翻訳／田中雅敏

このコラムは教科書『どんどん話そうドイツ語』の追加教材として執筆されたものです。
それ以外の用途での使用、コピー、転載を禁じます。株式会社 郁文堂

コラム 5

ドイツのお金

ユーロはヨーロッパの通貨です。しかし、すべての国でユーロを採用しているわけではありません。たとえば東欧諸国は EU 加盟国ではありますが、独自の通貨を保持しているところがほとんどです。通貨というのは必ずしも安定しているとは言えません。戦争や金融改革などがあればたやすく変わってしまう可能性もあります。ドイツでも通貨は何度も変わりました。たとえば、筆者（リースナー）の父親が生まれた時代には、まだライヒスマルクという東西ドイツに分断される前のドイツ共通通貨がありました。その後、父は 5 回もの通貨切り替え（1948 年、1964 年、1968 年、1990 年、2002 年）を体験したのです。下の表にある通り、旧東ドイツで通貨の切り替えが多く、西ドイツのドイツマルクはユーロが導入されるまで、長く変わることはありませんでした。

	旧東ドイツ	旧西ドイツ
1948	Deutsche Mark der Deutschen Notenbank	Deutsche Mark (DM)
1964	Mark der Deutschen Notenbank	
1968	Mark der DDR	
1990	Deutsche Mark (DM)	
2002	Euro	Euro

筆者も、東ドイツにおいて 1990 年に西ドイツのドイツマルクが導入されたときのことは今でも忘れられません。通貨切り替えの前日は、ガソリンスタンドに長蛇の列ができていました。みな、東ドイツマルクで給油しようと並んだのです。ドイツマルクは東ドイツ人にとって夢の通貨であり、すでに導入前から人目をしのんで使われていました。ドイツマルクは、ドイツの経済力、購買力を強くしてくれるものであり、何よりもドイツ統一の象徴だったのです。

日本では、1871 年以降日本円が用いられています。当時の日本には品質の良い紙幣を印刷できる技術がなかったため、ドイツのフランクフルト・アム・マインにある印刷所に新しい日本円紙幣の印刷が委託されました。印刷された紙幣は船で日本まで運ばれました。ただし、日本も、自国の技術で紙幣が印刷できるようになるまでに長くはかかりませんでした。

コラム執筆／フランク・リースナー　翻訳／田中雅敏
このコラムは教科書『どんどん話そうドイツ語』の追加教材として執筆されたものです。
それ以外の用途での使用、コピー、転載を禁じます。株式会社 郁文堂

コラム 6

東西ドイツにおける町の発展

1990 年までは、西ドイツと東ドイツでそれぞれ異なる社会制度・経済制度がありました。戦時中、連合軍の爆撃機が何もかもを破壊し、ドイツの大都市は本当に消し去られました。西ドイツではすでに 1950 年代以降、流通機能や住宅街といった都市機能を都市周辺部もしくは郊外に移転させ、市中心部には企業やショッピングセンターが建ち並びました。郊外からの通勤者のため、街には近代的なインフラが整備されました。車が移動を楽にしてくれるのに合わせた町の整備がなされたのです。西ドイツでは、様々な利害のバランスをとらなければならないこともあり、都市計画の策定には長い日数を要しました。しかし、ひとたび決定してしまえば、建設・整備は迅速なものでした。東ドイツでは、国民の抵抗・反対を受けないうちに策定してしまいたい思惑があり、都市計画は早いものでした。しかし実際の建設には、とりわけ住居整備の分野で西ドイツよりも長時間を要しました。なぜなら資材と労働力が慢性的に不足していたからです。首都の見栄えが最優先されたため、多くの労働力がベルリンに集められていたのです。

新しい土地を開拓するには町の郊外のほうがかかる費用が安く済んだため、共同集合住宅が郊外に多く建てられました。町の中心部では、戦争で破壊された教会も再建されないまま手つかずのものも多くあり、中心部を復興させられるだけのお金も資材もなかったため、住宅難はいっこうに解消されませんでした。町の至る所で交通渋滞が慢性化し、それを迂回するための道路も建設できませんでした。排気ガスや騒音もひどいものでした。

東西ドイツ統一後になってようやく、東ドイツの各都市にも近代化の波がやってきました。道路は拡張され、迂回道路も多く建設されました。多くの商業施設も市の中心地から郊外へと移転しました。

©Sebastian Trommer

東西ドイツの住宅建築に大きな影響を与えたのは、第二次世界大戦前に東ドイツ・ワイマールに設立された建築学校「バウハウス」です。バウハウススタイルの建築の特徴は、緑に囲まれた多層建築であり、ベルリンにある蹄鉄型建築群（写真）は世界文化遺産にも登録されています。

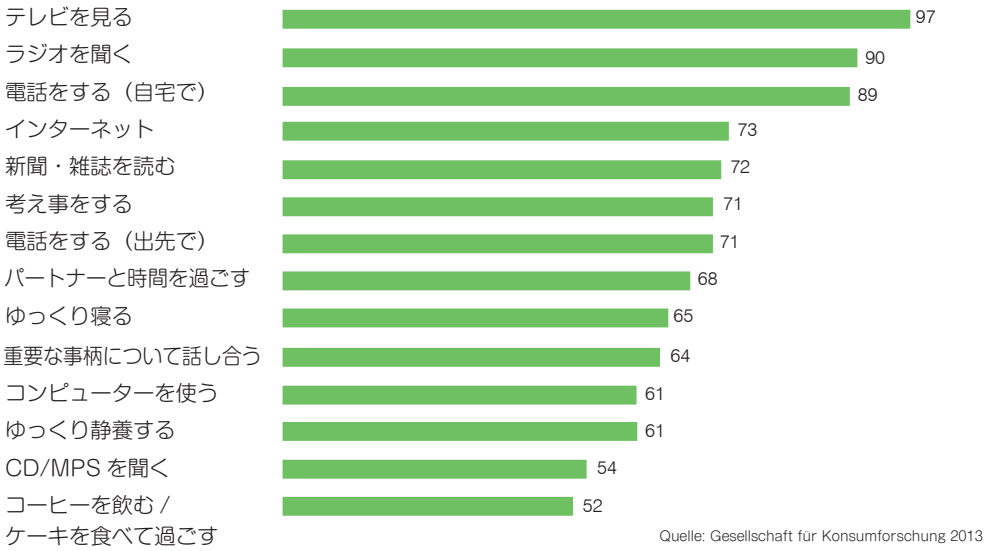
コラム執筆／フランク・リースナー　翻訳／田中雅敏

このコラムは教科書『どんどん話そうドイツ語』の追加教材として執筆されたものです。
それ以外の用途での使用、コピー、転載を禁じます。株式会社 郁文堂

コラム 7

ドイツ人と余暇

100 人に聞きました。余暇に定期的に（少なくとも週に一度は）していることは？



Quelle: Gesellschaft für Konsumforschung 2013

上の統計グラフは、「少なくとも週に一度はすることといえば？」という問いに対してドイツ国民が 2013 年に答えたものです。それによると、ドイツでは余暇にすることとしては「テレビを見ること」が一番人気だということがわかります。テレビは 1981 年の調査では人気トップではなく、「新聞を読む」「手芸」「庭仕事」に次いで第 4 位でした。テレビは、当時は公共放送がドイツ第一放送 (ARD)、第二放送 (ZDF)、そして地域ごとに違うローカル局の 3 チャンネルしかなく、放送内容も娯楽番組よりは情報番組のほうが多いものでした。民間放送が参入したのは 1984 年で、今日ではブロードバンド通信を用いた 145 局もの放送局が音楽、ゲーム、スポーツ、ニュース、あるいはローカル情報など様々な内容を提供してくれています。

今日のランキングで、余暇にされることの第 2 位は「ラジオを聞くこと」です。これは車の運転中や家事をしながらでも聞けるため、人気があります。第 3 位は「家で電話をすること」です。ドイツ人の 4 人に 3 人がインターネットを定期的に利用しており、今や雑誌や新聞を読むことよりも重要になってきています。携帯電話からの通話も近年増えてきており、ドイツ国内を鉄道やバスで移動していると、ドイツ人がいかによく通話をしているかを見てとることができるでしょう。これらの (ニュー) メディア以外には、「気ままに寝ること」のようなリフレッシュや、「物思いにふける」ような行為、また「パートナーとの時間を大切にする」「重要な事柄について話し合う」などの対人行動がトップ 10 にランクインしています。

コラム執筆／フランク・リースナー　翻訳／田中雅敏

このコラムは教科書『どんどん話そうドイツ語』の追加教材として執筆されたものです。
それ以外の用途での使用、コピー、転載を禁じます。株式会社 郁文堂

コラム 8

旅行をするドイツ人

ドイツは観光立国です。素敵な街角、宮殿、城、古都もたくさんあります。ドイツには、19 世紀にはすでにヨーロッパの富裕層が静養した保養所がたくさんありました。バルト海沿岸には保養所が点在し、また山岳地帯にも新鮮な空気を吸えるところがたくさんあります。たとえば、南ドイツのバーデン・バーデンという町は、温泉保養施設があることでローマ時代から有名でした。

第二次世界大戦後に主流になった団体旅行は、東ドイツでは特に積極的に導入されました。東ドイツの人々は休暇になるとバルト海沿岸にでかけ、キャンプをしたり、国営の保養施設で過ごしたものです。ホテルはほとんど自国民に向けられており、外国人に向けられていたところは多くありませんでした。西ドイツの人々はライン川、バイエルン、北海といった国内の名所のみならず、外国にもよく出かけていきました。イタリア、スイス、スペインは伝統的にドイツ人観光客をたくさん抱えています。スペイン領のマヨルカ島は、とりわけドイツからの観光客が多いところです。旅行を通して、ドイツ人は外国の文化、食事、語彙などを自国に持ち帰ります。こうして西ドイツは東ドイツよりも早く国際的になっていきました。東西ドイツ統一後、旧東ドイツ領だったメクレンブルク・フォーアポンメルン州は、その綺麗な湖やバルト海の存在のおかげで、旅行先として一大ブームを巻き起こしました。ドイツ国内で人気のある旅行地としては、他に数々の世界遺産都市が挙げられます。2018 年現在、ドイツ国内の世界遺産指定地は 43 にのぼり、そのうち 3 箇所は自然遺産です。ドイツ人は学習旅行も好きで、旅行先の歴史などに触れる旅も好みます。著名な人物が暮らしていたり活躍した場所、名高い建築物を見学したり、有名な生産物の産地を巡ったりするのです。ドイツでは、このようなテーマごとに各地を束ねて「街道」という形でアピールしているものが見られます。有名なものとして、ロマンチック街道とメルヘン街道を挙げることができるでしょう。

シュヴェリーン城。メクレンブルク・フォアポンメルン州の有名な観光地のひとつ。

コラム執筆／フランク・リースナー　翻訳／田中雅敏

このコラムは教科書『どんどん話そうドイツ語』の追加教材として執筆されたものです。
それ以外の用途での使用、コピー、転載を禁じます。株式会社 郁文堂

コラム 9

ドイツの保険制度

社会保険は、ドイツでは５つの下位分類があります。まず、ドイツで最初に導入されたのは 1883 年の医療保険です。次いで、1884 年には事故保険、1889 年には年金保険が始まりました。当時は産業発展が盛んでした。ドイツの人々は、それまで生活基盤であった農村共同体や農園を後にして、工場に行き、自分の労働力を工場主に売ることになりました。しかし、もし病気になったり、あるいは年齢のせいで働けなくなったりした場合でも、助けてくれる人はいませんでした。社会保険導入の目的は、このような産業に従事する人々を守ることだったのです。当時の労働者たちの多くが、工場に押し込められ、粗末で狭い集合住宅で暮らさなければならなかったため、労働者の蜂起や暴動を恐れた国が労働者を守る保証をすることになりました。労働組合自体がそのような保険制度を構築することは避けたかったという事情もありました。

1957 年になって、ようやく失業保険も導入されました。介護保険の登場は、高齢化が社会問題になりつつあった 1995 年からです。高度経済発展が終わった 1970 年台以降、失業者も増え、人々は最終賃金に応じた失業保険金を手にしました。しかしこの制度では、失職直前の賃金から失業保険の受給額を算定していたため、不平等なことも多々ありました。また、失業保険を受け取る要件を満たしていない人のために社会扶助という制度があったのですが、低所得だった人の失業保険は、この社会扶助よりも少ない、ということもありました。この制度は複雑であること、また、働く気がない人をも救ってしまうという難点もありました。そのため、失業保険制度は 2005 年に刷新されました。この新制度では、失業保険は最大でも一年間しか支給されず、それ以降はハーツⅣの受給者となります。この制度設計は明確です。それ以来、ドイツの失業者数は減りました。今日では、ドイツはヨーロッパの中でも最も失業率の低い国の一つになっています。

ドイツ：ハーツⅣ基本率（成人） 364 ユーロの内訳（単位：ユーロ、2011 年 1 月 1 日より）

129.24 食費・ノンアルコール飲料	40.20 余暇・娯楽・文化	32.15 ニュース・情報
30.58 衣類・靴	30.42 住まい・光熱費	27.58 内装
22.92 交通費	15.64 健　康	7.20 宿泊・外食
1.40 教　養	26.66 その他	

コラム執筆／フランク・リースナー　翻訳／田中雅敏

このコラムは教科書『どんどん話そうドイツ語』の追加教材として執筆されたものです。
それ以外の用途での使用、コピー、転載を禁じます。株式会社 郁文堂

コラム 10

ビアガーデンの歴史

ミュンヘンのビール祭り「オクトーバーフェスト」
©FooTToo/Shutterstock.com

古い言い伝えによると、ビアガーデンができたのはカトリック教会と２人の聖人のおかげだと言われています。

バイエルン地方の 1539 年の醸造令に従えば、ビールは聖ミヒャエルの祝祭日（9 月 29 日）と聖ゲオルクの記念日（4 月 23 日）の間の期間しか醸造されることが許されていませんでした。ビール醸造にとって火災の危険性が最も高まる季節のため、夏場の醸造は禁じられていたのです。そのため、ビールは夏場の貯蔵に耐えられなければなりませんでした。そこでビール貯蔵庫が作られました。これは、たとえばイーザー川の斜面に作られました。よりよく冷やせるよう、冬の間に調達した氷を使用したり、木陰をもたらしてくれるよう栗の木を植えたりしました。このことから、栗の木は今日でもビアガーデンにとっては伝統的で象徴的な木です。ビールを新鮮で冷やして売るため、木の下にベンチを置き、市民が気軽に飲みに来られるよう工夫がなされました。これでいい思いをしたのは宿泊施設です。醸造所のおかげで、ビアガーデンを訪れるお客をレストランに誘うことができたからです。一方で、醸造所はみなバイエルン王ルートヴィヒⅠ世を恨みました。というのもこの国王は、醸造所はビールだけを販売することができ、食べ物を提供してはならないという法令を定めたからです。栗の木陰の下で１リットルジョッキでビールを楽しみたい人は、自分で食べるものを持参しなければなりませんでした。この伝統は、古典的なビアガーデンには今でも残っています。

もちろん、今日ではビアガーデンに行けば何か食べるものは手に入ります。それと同時に、自分で食べたいものを持ち込むこともできるのです。バイエルン王が定めた法令は、今日も生きています。

コラム執筆／フランク・リースナー　翻訳／田中雅敏
このコラムは教科書『どんどん話そうドイツ語』の追加教材として執筆されたものです。
それ以外の用途での使用、コピー、転載を禁じます。株式会社 郁文堂

コラム 11

ドイツの地勢と気候

ドイツは 9 つの国と国境を接しています。チェコ、ポーランド、オーストリア、スイス、フランス、オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、そしてデンマークです。バルト海と北海の海岸があるため、ドイツも部分的に海に面しています。バルト海には干潮満潮がありませんが、北海には日本と同様に干ばつや洪水が起こることがあります。バルト海には、リューゲン島というドイツ最大の島があります。ドイツは全域的に平らで、なだらかな丘があるぐらいですが、南部に行けばアルプスがあることもあり、高山地帯となります。中でも、ドイツとオーストリアの国境にあるツークシュピッツェの標高は 2,962 メートルでドイツ最高峰です。ドイツの河川は日本と比べて長いです。河川には、雪解け水や大雨で土地が蓄えた水を海まで運ぶ役割があります。洪水もしばしば起こります。1993 年と 1995 年にはライン川で、2002 年と 2006 年にはエルベ川で、また 2010 年にはオーダー川で、2013 年にはエルベ川とドナウ川で大氾濫がありました。

湖が多いのもドイツの特徴で、アルプスの麓やメクレンブルク・フォーアポンメルン州にとりわけ点在します。ドイツで最大かつ最深を誇る湖は、ドイツ南部、アルプスの麓のボーデン湖です。

ドイツにも地震はあります。ドイツ西部ライン地方のアイフェル高原とバイエルン北部の上部プファルツ地方は、特に地震で知られる地域です。ライン川に沿っても地震は起こります。地震があるところには温泉がつきもので、ドイツにも南ドイツに有名な温泉保養地バーデンバーデンがあります。しかし、ドイツの地震は小さいため、地震計で記録されるものの人間が体感して気がつくことは稀です。

夏は、日本のほうがドイツよりも遙かに湿度が高く、降雨量も多いです。亜熱帯気候と温暖湿潤気候にまたがって属する日本とは違って、ドイツが属するのは単一の気候帯であり、亜熱帯でもなく、年間を通しての気温の変化も大きくありません。年間平均気温は 9.3℃です。

コラム執筆／フランク・リースナー　翻訳／田中雅敏

このコラムは教科書『どんどん話そうドイツ語』の追加教材として執筆されたものです。
それ以外の用途での使用、コピー、転載を禁じます。株式会社 郁文堂

コラム 12

ドイツとオリンピック

オリンピック大会が政治に影響される面があることは常です。どの国も自国の選手を表彰台で見たいものですし、国歌を聞きたいもので、その感情はごく自然なことでしょう。しかし、自然でなかったと言えるのは、冷戦中、西ドイツと東ドイツがスポーツ分野で激しく競っていたという歴史です。1964 年までは 2 つの国で 1 つの選手団しか派遣できませんでした。これは選手たちにとっては酷なことでした。予選会の数も多く、オリンピックでどちらの国の国歌を流すか、ユニフォームを提供するのはどちらの国か、どちらの国の国旗を持っていくかなど、争いが絶えませんでした。1968 年になって、東ドイツは独自の選手団を派遣することができ、自国の優秀な選手の活躍を世界に知らしめようとしました。当時は、優秀なスポーツ選手を輩出できる国が、国としても優秀だという考え方があったのです。1972 年にミュンヘンで開催されたオリンピック大会では、東ドイツの目的はただひとつ。政治的敵国（西ドイツ）の領土内でよりよい評価を得る、というものです。両陣営ともお互いを意識していたため、様々な“武装”がなされました。ドーピングも導入されました。東ドイツは西ドイツよりも、体系的・効果的に組織されていました。子どもたちに競争させて良い選手を輩出する制度、名付けて「スポーツアカデミー」が組織され、優秀な若者を育成するための特別な体育学校も設立されていたのです。

ミュンヘンオリンピックでの東ドイツの成績は全体の第 3 位。西ドイツは 4 位でした。それ以降も、東ドイツはオリンピック大会の度にトップ 3 に入り続け、西ドイツはそのすぐ後ろの順位となりました。1990 年に再統一したドイツは 1992 年の大会で再び単一のチームを編成しました。しかしそれ以来、ドイツの戦績は優れず、悪くなる一方です。2012 年のロンドン夏季大会と 2014 年のソチ冬季大会では 6 位がやっとでした。皮肉なことですが、政治に端を発する東西の異常な競争がなくなったことも、成績後退の一因でしょう。また現在では、スポーツに充てられる予算も減少し、スポーツ振興組織とスポーツ教育組織の関係も、明らかに悪化しています。

政治が、どれほどスポーツを自分たちのために利用しているかは、ボイコットなどの議論が交わされる度に見て取ることができるでしょう。1980 年と 1984 年のオリンピックでも、残念なことに政治的ボイコットがありました。2020 年の東京大会ではどの国・地域の選手団も欠けることなく、日本もドイツも、躍進してくれることを願いたいものです。

コラム執筆／フランク・リースナー　翻訳／田中雅敏
このコラムは教科書『どんどん話そうドイツ語』の追加教材として執筆されたものです。
それ以外の用途での使用、コピー、転載を禁じます。株式会社 郁文堂